

第15回 ちゅうでん教育振興助成（平成27年度）

報告書資料 一般-24

学校名・団体名	上越市立大潟町小学校
HPアドレス	http://www.ohgata-e.jorne.ed.jp/
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	子・家庭・地域を「食」で紡ぐ 「どんど学習」の展開
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>〈活 動〉 「食」を視点に、大潟区に存する「人・もの・こと」とつながり、自分自身を含めた「ふるさと」に愛着をもつ活動</p> <p>〈意 義〉 活動の意義は3つある。 1つは、子ども自身が望ましい食習慣を身に付けることができることである。 2つは、「食」を通して、地域の産物や食文化を理解し、ふるさとに愛着をもつことができることである。 3つは、地域の人々や産物の生産者、そして「食」への感謝の気持ちを育くめることである。</p> <p>〈目 的〉 「食」を視点に大潟区に存する人・もの・ことはたらきかける活動を通して、ふるさと大潟区に愛着をもち、自分の生き方を見つめることを目的とする。</p>	

1. 活動の実際

- 1年生 4月;「目指せ給食の達人」お母さん先生による給食指導:保護者や地域ボランティアを募り、給食の配膳や食事のマナー、箸の持ち方など、担任だけでは対応できないきめ細やかな指導を行うことができ、給食好きな子どもになった。
- 9月;「サラダで元気」栄養教諭による栄養指導:野菜嫌が多い子どもに、ジュースやゼリーに加工した地場産野菜や、子ども自身が調理して食べることで、野菜のパワーを実感し野菜への抵抗を減らすことができた。
- 2年生 5月;「わいわい農園野菜作り」地域の野菜作りの名人をお招きして、一緒に畝づくりから夏野菜の栽培、収穫を行った。自分の手で作る喜びを味わった。
- 9月;「夏野菜カレーづくり」保護者と一緒に、子どもが栽培した夏野菜やジャガイモでカレーライス作りを行った。保護者との絆が深まった。
- 10月;「おでんづくり」野菜作り名人をお招きして、収穫した大根を使ったおでんパーティー。収穫の喜びと感謝の気持ちを表すことができた。
- 3年生 10月;「大豆の変身七変化」国語の説明文の教材を参考に、栄養教諭が子どもの目の前で、大豆の様々な加工品をつくった。大豆が様々な姿に変身することで、食品加工の面白さ、おいしさを実感することができた。
- 4年生 11月;「潟川を探る」地域の米作りに利用されている潟川。米作り以外にも、潟川が地域の人々にどのような恵みをもたらすのか、米や地場産野菜の生産者から聞き取りをした。
- 5年生 12月;「大潟スイーツコンテスト」大潟で生産されている野菜や果物など、農産物を調べ、それらを生かしたスイーツを開発し、商工会主催のコンテストに出品した。農作物から地域の特徴を探ることができた。
- 1月;「大潟オリジナル給食献立作り」家庭科で学習した栄養バランスとどんど学習で調べた大潟の水産物や農作物、それらを総合的に判断しながら大潟町小学校のオリジナル給食献立作りをした。
- 6年生 11月;「大潟PR大作戦~ふるさと弁当を作ろう~」安心・安全な食材、地産地消、郷土料理、大潟の風景や自然、他県との違い、食文化や伝統料理、日持ちさせる技術や保存方法など、様々な要素を調べ、ふるさと大潟を表しよさや特徴を他の地域の人々にPRする弁当を考案した。また、観光協会や商工会にプレゼンし、地域のイベントで販売した。
- 保護者 9月;「食から見直す生活習慣」学校医や大潟区総合事務所の保健師、栄養士を招いて、食と子どもの成長や生活習慣についての講話を聴き、各家庭の状況や悩みを話し合うワークショップを開いた。
- 11月;「我が家の朝ごはんオリジナルレシピ集の作成」家庭の定番朝食から、オリジナル朝食まで、安くて簡単で、朝から元気になる朝食のレシピ集を作成した。各家庭からレシピを募集し、コミュニティープラザの家庭科室で調理し、料理の写真撮影やコメント記述など、有志の保護者「朝ごはん作り隊」の手によるレシピ集づくりと全家庭への配付をした。
- 年間 1回;『食』を取り入れた学年活動」親子調理や米の味くらべ、朝ごはんについての話し合いなど、年に数回行われる学習参観日に「食」を視点に取り入れた保護者参加型の学習参観を実施した。
- 全校 1学期;「ふれあい給食」給食調理員と児童が配膳室で、顔を合わせながら給食準備や片付けを行った。
- 2学期;「招待給食」地場産野菜の生産者をお迎えして、一緒に地場産野菜を使った給食を食べた。生産者に児童の様子を見てもらい、また、感謝の言葉を述べた。
- 3学期;「しあわせ給食」いただきます、ごちそうさま、もったいない、ありがとうの4つの心を振り返った。

2. 成果

地域や家庭と連携し、「食」を視点とした本活動の成果は、「子どもが大潟区をまるごと好きになった。」ことである。大潟区の「食」はもちろん、それに携わっている人、自然、文化、産業に愛着をもつことができた。そして、「望ましい生活習慣を身に付ける活動」や「ふるさとに愛着をもつ活動」、「人への感謝の気持ちをもつ活動」を通して、自分自身も好きになっていくことになった。「変化・成長しうる自分」や「よりよくなろうとする自分」、「家族や友だちから大事にされているかけがえのない自分」、「ありのままの自分」など、さまざまな自分の姿に気付くことで、自分に自信をもつようになった。生きることへの勇気が湧き、様々な活動に対して前向きで、本気になって取り組んだ。「食」を見つめていくことで、「自分自身の生き方」を見つめていくこととなった。